

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームふじの里 やまぶき棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500154		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホームふじの里 やまぶき棟		
所在地	〒023-1762 岩手県奥州市江刺藤里字平37-2		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	令和4年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふじの里では、私たちは”あふれる想いであなたに寄り添い笑顔が喜びとなる暮らしを想像します。”という理念のもと、コロナ禍の中ではあるが、施設内にて季節の行事を実施。家族との繋がりの維持とし、LINEを用いてご家族との面会の実施。  
地域との繋がりの維持としてオンラインを用い繋がりが切れなよう協力し交流会を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然環境に恵まれ、住家が点在する道路沿いに立地している。職員の話合いで策定した法人の経営理念に加え、今後、ユニットごとに理念を定め、ユニットの特性に応じた、質の高い支援を意識的に進めている。中学校とオンライン交流会を開催し、今後は小学校や保育園での実施も検討している。利用者参加の朝の会では、当日の出勤職員を伝え、利用者職員が会話し、入浴等の希望を把握し、また、居室担当職員と利用者が会話を15分程度設け、利用者個々の意向把握に努めている。ケアマネ、居室担当職員、管理者等が協力しあって、丁寧に作成された介護計画に基づき、個々の利用者に応じた効果的なサービスを実践している。運営推進会議は、利用者代表も参加し、行事も利用者の意向や役割を意識して進めている。法人内各事業所の職員参加のもと権利擁護委員会を設置し、利用者の尊厳を意識したサービスの推進を図っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念、「あふれる想いで、あなたに寄りそう」を各ユニットで掲示し、管理者・主任を中心理念を心がけている。また、利用者の支援に関しても、理念に基づく対応が出来るよう、管理者・主任、職員が話し合い実践している。	職員の話し合いで策定した法人の経営理念を、各ユニットに掲示し、理念に基づく利用者支援を心掛け実践している。今後、各ユニット毎に目標を定め、めざすケアの姿勢を明らかにしていきたいとしている。	理念の策定やユニット目標の設定、改善内容の職員への周知など、職員相互の意志を踏まえた上で進めており、次の段階としてユニット毎の目標がどのような内容に定められるか期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外部との交流は控えているが、10月オンラインを用い中学校との交流会を行った。	例年は、保育園や小中学校との交流を始め事業所での夏祭り等地域との交流が盛んである。コロナ禍の今年は、制約が多いなか、中学校とは、校長、担当教師と事前に打ち合わせてオンライン交流会、オンライン文化祭鑑賞を行い、利用者と中学生の「赤とんぼ」合唱等相互のやり取りが好評であった。今後、同様に小学校・保育園との交流を深めたいとしている。	オンラインで中学校との交流会、文化祭の交流を行なうなど、コロナ化の制約がある中工夫されている。今後も、地域との交流を継続されることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校のインターンシップがコロナにて出来ない状況の中だったが、高校生へグループホームについてや利用者の様子、職員がどのようなことをしているか説明を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年の運営推進会議は、コロナウイルス感染防止の為、書類にて利用者の入退居状況、活動報告を行っている。助言等ある場合は返信用の書類にてFAXでおねがいしている	コロナ禍の下、書面開催としており、返信用封筒を同封し意見をいただいている。委員は、利用者及び家族、振興会長、区長、市職員のほか地元駐在所員も加わっている。委員と利用者の食事の機会をセットし、交流を深めている。	委員と利用者の食事の機会をもち、交流を深めていることや、利用者の代表に委員として委嘱状を交付し、利用者自身の参加意欲や誇りを高める等、工夫の姿勢が見られる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本年の運営推進会議はコロナウイルス感染防止の為、書類にて地域包括支援センターの職員に対し、入居者の状況並びに入居者の状況について報告し、助言を頂いている。	運営推進会議に、市担当課グループ長が参加し指導助言をいただいている。地域包括支援センターとは、電話相談を行なうなど、情報を共有している。認定調査・更新申請や生活保護手続きの際に、報告・協議を含め、各担当者と連携を図って進めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束は行わないと、入居契約締結時に説明をしている。本年度より、利用者の権利擁護委員会を作り身体拘束と高齢者虐待を中心に良い介護が出来るよう注意喚起を行っている。	法人内の各事業所の代表者を委員とし、身体拘束廃止・高齢者虐待防止を含めた権利擁護全体の検討を行う「利用者の権利擁護委員会」を設置している。職員研修も、年6回の予定で既に3回実施している。職員アンケートも行い、職員の意識付けが徹底されており、アンガーマネジメントによる職員のセルフコントロールを最近の課題としている。スピーチロックについては、資料で研修している。事業所や居室の入り口に鈴を設置し、利用者の安心感に配慮している。	早期に利用者の権利擁護委員会を設置し、制度改正による高齢者虐待防止への取り組みが率先して進められている。今後の進展と先取的取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の権利擁護委員会にて、職員アンケートを行い、現在の対応方法など分析し、啓蒙活動を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度、高齢者権利擁護推進委員要請研修受講、権利擁護についての知識を深め、成年後見制度についても必要と感じる場合は、各担当と話し合い進めて行こうと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ホーム入居への不安を相手の立場で考える様接し、丁寧に説明をするよう心掛けるとともに、意向確認書にて、重要事項に関しては二重に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置し意見がある場合は記入し入れてもらうよう話している。	利用者と担当職員が(10日に1回15分ほど)面談する時間を設けており、要望や意向を聞いている。11月からは、面会を再開しており、土日でも3、4人程度訪れている。利用者の思いを確認して欲しいと話される家族もいる。家族には、写真に加え、担当職員の手書きによる利用者個々の生活の様子が丁寧に書かれた「ふじの里だより」を毎月送付し、好評である。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者が、意識的に職員との会話をしている。ユニットミーティングにおいても、改善提案などの話し合いの機会を作っている。	代表者と管理者は、普段の職員との会話で意見や要望を聞き取るよう意識している。職員会議や毎月のユニットミーティングでは、改善提案事項を事前に書面で提出してもらい、検討している。職員アンケートを実施し、職員相互に長所を出してもらい「ありがたい職員としての姿」の意識づけを図っている。今後、ハラスメント対策などの相談体制の充実を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	来年度より、人事考課プロジェクト発足としており、管理職だけではなく、職員も入り進めていく事としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の配慮とともに、介護支援専門員の受験、介護福祉士の受験、実践者研修、認知症介護実践リーダー研修を受講・受講予定の者がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の会員であり、他施設研修も県が得てはいるが今年はコロナウィルスの為控えている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居内定した場合、本人様と面会し、ホームにて、どのように生活したいか、不安や要望を傾聴し、相手の立場になり親切かつ丁寧な説明を心がけている。不安に思った所があった場合いつでも相談にのっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からホームの入居に関して困っている事や、不安、要望、ご家族様の意向を伺い、質問に応じ納得していただけるよう努めている。利用前であっても都度相談に応じられる事を説明している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様との面会を通し、今一番困っている事、一番したいことを明確にして、どのサービスが一番良いか、話し合いにて納得して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員にて、食器拭き、おしぼり作り、洗濯物干し、洗濯物たたみを一緒にいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や毎月の便りにて、本人の生活の様子や思いを伝え、ケアに関して相談しながら気軽に話し合うことが出来る様配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止の為、面会等の問い合わせに対し、LINE面会を提案している。 行きつけの美容院へ行きたいと希望があり、ヘルパーを利用し継続できている利用者様がいる。	11月から、家族等との面会(15分程度)を再開している。天気の良い日は藤原の郷周辺や近隣のドラッグストアでの買い物がてらにドライブしている。ドライブは週1回以上で、利用者の意向を踏まえながら、本人にとって馴染みのある場所に出かけている。家族がヘルパーに依頼し、馴染みの美容院に通っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で隣同士に座ってもらったり、おやつを食べたり、レクリエーションなどを通じ全員で楽しめるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際も、ご家族様、介護支援専門員と管理者にて、今後について話し合いを行い、いつでも相談に応じられる事を説明している。		

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者ごとに担当職員を決め、入居者と毎週話し合いの場を作っている。	10日に1回15分ほど、利用者と居室担当職員が気楽に話しあう時間を設け、本人の意向を聞き取る機会としている。利用者が「何をしゃべったら良いの」といって来たり、しゃべりたい人はずっとしゃべっている。テレビを観ていたりするが声をかけてもらって嬉しいと、反応は様々である。美容院やドラッグストア等の外出希望を介護計画に取り入れている。入浴時、就寝介助時、通院同行などのほか、素振り、表情からも意向の把握に努め、ケース記録に記入し職員間で共有の上、日々の支援に反映している。	朝の会で入浴の希望を聞いたり、居室担当者との話し合いを定期的を実施するなど、利用者の希望や意向を把握する機会を工夫している。今後も、利用者に寄り添った支援を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査にて、ご自宅を訪問し、ご家族様より状況の聴取、ご自宅での様子を実際に確認し現状を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施記録にて、バイタル・食事摂取量・レク・入浴を記録し、日々の経過記録を確認し、毎月のモニタリングをもとに、課題分析表にてカンファレンスをしてケアプラン化し一人ひとりの対応と過ごし方を職員が理解し実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、管理者、介護支援専門員を加えてカンファレンスを行い、より入居者様の意向を踏まえた生活ニーズとその支援内容を決定している。	介護計画は、居室担当職員のアセスメントを基礎に介護支援専門員が作成し、計画作成担当者、管理者、職員が参加するカンファレンスを行ない、家族に了承を得ている。課題の中で、利用者・職員の意見を統一した重点事項を絞り、長期・短期目標を分かりやすく設定している。6ヵ月後の見直しを基本とし(3ヵ月の場合もある)、その前月に、職員参加のカンファレンスを経て利用者の意向を踏まえた介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録、業務日誌、経過記録を元にモニタリングをし、実施記録にて職員間で情報を共有しながら実績、介護計画の見直しを行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、利用者に合わせたケアに必要な事項や福祉用具の検討を常にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ヘルパーを利用し、馴染の美容院への行かれています利用者様がいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者様・ご家族様の医療に関するニーズを伺い、かかりつけ医を決めている。	入居前からのかかりつけ医通院は、家族が同行している。内科、歯科とも協力医がかかりつけ医の場合、通院は職員が同行している。皮膚科・精神科等他診療科の受診は家族同行としており、状況に応じて歯科の訪問診療を利用している。隣接のデイサービスには看護職員がおり、健康管理面での支援を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の服薬状況、体調など状況に応じ都度、協力医療機関に報告し、利用者の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に緊急受診、入院した場合、情報提供書を医療機関に提示している。退院時は看護サマリーの提示を求めるとともに、退院時カンファレンスにて、スムーズにホームに戻って来られるよう努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び状態の変化がある場合、ご家族様に、入居者様の終末期における意向を確認している。 看取りを行ったケースがあり、ご家族様と協力医とホームにて対応を話し合い、全職員間で共有し行っている。 現在、入居されてる利用者の中にも、ホームでと希望されている方もいる。	入居時に、重症化や看取り対応について家族に説明し、意向を確認している。状態変化時には、かかりつけ医、家族、職員と話し合い、特別養護老人ホームへの入所、あるいは当事業所での看取り等、関係機関と連携し支援している。看取り実施後には、対応した職員へのアフターケアに配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにのっとり、変化が見られた場合は社長及び管理者へ連絡し指示を仰いでいる。 緊急性がある場合は、救急へ連絡をすることとしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練、夜間訓練を実施しているが。避難の態勢については一部地域住民の協力は得られるが、現実的には近隣住民が仕事の為留守が多く難しいことも考えられ、警備会社と契約し、火災時の対応をお願いしている。	消防署立会いのもと10月に総合訓練を実施し、11月には、事業所単独で夜間想定訓練を実施している。停電の場合、30分から40分程度の時間は非常灯の明かりで保てることとなっている。 ハザードマップ上での指定はなく、近隣の自然環境から災害の想定範囲は、地震・火災・漏電等である。車椅子での避難をシュミレーションし、一時避難場所である駐車場での見守りを地域住民の方々にお願いすることとしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方には耳元で話す。動作で押し量る等本人の意向の把握に努めている。また失禁等での失敗もさり気なくカバーし、誇りを損ねないようにしている。	異性介助を躊躇する利用者もおり、利用者自身の意向や誇りを尊重するよう配慮の上対応している。日々のケアにおいて、スピーチロック等の言葉遣いや失禁時の職員の慌しい動き、利用者の面前での発言などは、権利擁護委員会の課題として捉え、組織全体として検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を日常会話の中から引き出せるよう心掛けている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に声がけにて確認し、本人の自発性を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時、どの服を着ていくか相談しながら決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間行事の中で、いつもとは違うメニューを職員内で話し合い提供している。また日常では、茶碗洗い、茶碗拭き等出来る事に取り組んでもらっている。	本社の管理栄養士が献立を作成し、職員へ栄養面での指導を行なっている。行事食では、職員が利用者の希望を聞き、団子・餅・あんこのほか、年末には海鮮丼等を献立に取り入れている。ドライブがてらの外食を楽しんでいる。利用者の状態に合わせ、ミキサー食、おかゆ、きざみ食を提供している。包丁で皮むきしたり、茶碗洗い、茶碗拭きなどできることに取り組み、畑仕事で収穫したかぼちゃを使った団子作りも行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が食事のバランスを考えたメニューを提供し、実施記録の中に日々の食事量や水分摂取量を記録し、そのデータから利用者の状況を把握している。 食形態に関しても、利用者様に合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを午睡前、就寝前に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、適切な時間に声掛けでの確認やトイレへ行けない利用者へは時間で確認している。	排泄チェック表を活用し、一人一人の適切な時間に声掛けしトイレに誘導している。車椅子の利用者は自室で介助している。利用者個々の状態に応じて、排泄用品の使用を工夫しながら、自立と現状維持をめざしたケアに取り組んでいる。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションを通して適度な運動量と水分補給を促し摂取するなどの支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望に関しては、朝の会で入居者の意向を確認し、入浴してもらっている。	近隣の温泉から温泉水(一日おき)を運び、毎日入浴可能な状態としている。利用者との朝の会で、入浴したい人と聞いて意向を確認し、利用者は一日おきに入浴している。男性同士で入浴したりもしている。季節の菖蒲湯や柚子湯を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝など、利用者様の訴えには柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方等を個人チャートに綴り、職員が確認している。確認表を作成しセット者と与薬者をわけ誤薬の無いように務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭にて季節の野菜を植え、成長過程を見たり収穫を通じ楽しみを感じられるよう行っている。気分転換にドライブなど外に出る機会も作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会制限をしていたが、11月より一部解除し、外出にも柔軟に対応している。 利用者と一緒に買い物などに出かけられるような支援も行っている。	コロナ禍で外出を控えていたが、庭のフェンスにアケビを這わせ、収穫がてらの散歩を行なうなど、外での活動を心掛けている。外出ができない分、行事計画作成への利用者参加や役割を担うことに意識的に取り組み、ひな祭りの飾りつけやホットケーキづくりを男性利用者と男性職員とで実施するなど、変化を加えた活動を行うよう工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則利用者の金銭所持はなくホームで預かり金として管理している。例年であれば買い物会などの行事を企画し金額を決めて購入できる場を設けている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールに、季節の花を飾り、また利用者と共同で作った壁飾り等掲示している。床暖、空気清浄機で適切な環境を整備している。「トイレ」の表示は利用者の目線に合わせて低い位置に貼っている。 車いすやシルバーカーを使用している利用者様もあり、動線も意識している。	共用の広いホールは、床暖房、空気清浄機等で、快適な生活環境である。椅子や食卓も各ユニットともゆとりを持って配置され、車椅子による移動もしやすい。トイレ表示の目線設定や動線への心配りが感じられる。季節の花(当日は春菊の花)が飾られ、壁面には利用者作品の習字・短歌が掲示されている。	花の少ない時期に春菊の黄色い花は意表をついており、工夫されていることが窺われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は、趣味が合う同士や、なじみの利用者同士で楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具日用品、思い出の品など持ち込みを可能にしている。	居室内は床暖房・エアコン等、24時間換気で室温調整されている。洗面台、クローゼット、柵なしの畳ベッド、寝具、洋服架け、整理ボックスが備え付けられている。利用者は、位牌・仏壇や写真、テレビ等を持参し、居心地良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に名前等の表示することで迷わないよう配慮している。		